

上伊那仰望カフェ 第3回 「子どもが安心して学べる教室づくり」

～インクルーシブ教育を実現するリーダーを目指して～

10月31日（金）に、3回目の「上伊那仰望カフェ」が上伊那教育会館大会議室で行われ、35名の先生方が集いました。今回は、「子どもが安心して学べる教室づくり」をテーマに、楠見友輔先生（信州大学教育学部講師）を指導者にお迎えしました。

限局性学習症（いわゆるLD）の疑似体験、学びに困難さがある子どもの支援についての考え方、学校をインクルーシブな場にするための方法について考えました。参加された先生方の感想を載せさせていただきますので、是非ご一読ください。



《 参加者の感想（抜粋） 》

支援が必要な子どもを取り出しで SST の学習を行うことで解決するのではなく、その子を取り巻くクラス集団の意識を育てなければならないという指摘が強く心に残りました。個別から集団に視点を変えて考えていくことが、多様性の教育に必要なことだと認識しました。インクルーシブ教育について考えさせられる研修でした。学習や対人関係の躓き等集団にいることが苦しくなっている子が増えている今、改めて子どもたちを「つなぐ」教育の実践が大切であることを学びました。

今年度初めて自情障学級の担任になり、自分自身の学級運営や授業の改善のために学びたいと思い、研修に参加させていただきました。一番心に残ったのは「授業観の転換」ということです。どの生徒にとっても取り組みやすい授業の仕組みや教材をつくる必要があるのだということを学びました。自分自身は個への配慮ばかり考えがちだったので、その考え方を変えようと思いました。目の前の生徒が、力を存分に発揮できる環境を整えていきたいです。

経験年数を重ねる事で、経験値も増えて、仕事に活かせることも多くなるが、今回のような研修を受けて、自分の教育観をアップデートしていかなければいけないと改めて感じた。教室の机の配置や、リフレーミングなど、早速連休明けから実践したい。



ケーキとお茶で、和やかな時間となりました。ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。